



「いのちの教育」推進全体計画

■県6教育振興計画

- 人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらくづくり
- つなぐ いのち・学び・地域—

■天童市の教育

- 「いのち」を大切に、たくましく生きる子どもの育成
- 自立・共生・信頼—

学校教育目標

自他のよさに気づき、豊かな生活を創りだす子ども

■学習指導要領改訂の重点

- 生きる力のさらなる育成
- 知識技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成

■保護者・地域の願い

- 一人一人の個性や可能性を高められる学校
- 一人一人、居場所のある学校

◆◆◆「いのちの教育」の重点目標◆◆◆

1【まなびづくり（「確かな学力」の育成）】

全教育活動において、言語活動を充実させ、自分の思いや考えを伝え合ったり、ふり返ったりする活動を取り入れ、確かな学力を養う。

2【なかまづくり（望ましい人間関係づくりのための指導の充実）】

特別活動を研究の窓口とし、学級・学年づくりを核に、異学年交流・自然体験・奉仕活動を行い、他を思いやる望ましい人間関係と集団の一員としての自覚を高める。

3【じぶんづくり（「まなびづくり」と「なかまづくり」を通しての自己の確立）】

思いやりの心や社会生活のルールを身につけ、励ましあい認め合える人間関係や自他のいのちを大切にする。

教科

道徳

領域

■各教科における「いのちの教育」

- 各教科の指導目標の達成を目指す中でいのちの教育を推進する。

国語	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高める。言語を通して適切に自己表現をする力や理解する力を高める。
社会	人々が相互に様々ななかかわりを持ちながら生活を営んでいることを理解する。自らが社会生活に適應し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てる。
算数	見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。考えを表現する過程で自分のよい点に気付いたり、誤りに気付いたりするとともに、互いに学び合うようにする。
理科	生命の連続性や神秘性に気付き、自分自身を含む動植物はお互いにつながっており周囲の環境との関係の中で生きていくと考え、生命を尊重しようとする態度を育てる。
生活	具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う。身近な人々、社会、自然と直接かかわる中で、自分自身や自分の生活について気付くことができるようにする。
音楽	表現及び鑑賞の様々な活動を通して、活動そのものを楽しんだり、音楽に感動したりする体験を積み重ねることで、感受性や情操を養い、豊かな人間性の育成を目指す。
図工	感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、そのことから造形的な創作活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
家庭	生命の維持や心身の成長発達などにかかわる人間的な営みを学ぶことで、生活における自立の基礎を培うとともに家庭生活を大切にしている心構えを育てる。
体育	心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康安全についての理解を図る。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

■道徳の時間における「いのちの教育」

【道徳教育目標】

未来への夢や目標を抱き、自らを律しつつ、社会や公共のために何ができるかを考え、世界の中で信頼される日本人を目指す。

- ・生活体験の語り合いや副読本の活用、説話などを通して道徳的価値を自覚する力、自尊感情、未来を拓く主体性のある豊かな感性を育てる。

- ・自分と人や環境、動植物とのかかわりや考え、「共に生きよう」とする実践的態度や心情を育てる。

【道徳の時間の指導方針】

- 発達段階をふまえ、各教科や総合的な学習の時間などと密接な関係を図りながら、これを補充・深化・統合していく。

- 生命に対する畏敬の念や尊重する態度の育成、主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての児童の内面に根ざした道徳性を育成する。

- 道徳的価値と人間としての生き方について自覚を深める。

- 「人間としてよりよく生きていく」ために道徳的実践力を育成する。

■特別活動における「いのちの教育」

- 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。自己の生き方について考えを深め、自己を生かそうとする能力を養う。

■総合的な学習の時間における「いのちの教育」

- 問題の解決や探究的活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができる。

■外国語活動における「いのちの教育」

- 外国語の音声や基本的な表現に親しみながら人との関わりる機会を増やし、多様な見方・考え方を養う。

■学年飼育活動における「いのちの教育」

- 実際に、それぞれの生き物を飼育する活動を通して、生命のはかなさ、強さ、大切さを実感する。

■生徒指導の充実

- 生徒指導の3機能（自己存在感・共感的理解・自己決定）を生かした授業を通して、自己有用感を高めていく。
- 災害や事故から身を守る方法を知り、予測しながら行動する大切さや自他のいのちを安全に守るための実践的な態度を養う。

■特別支援教育の充実

- 一人一人の違いを個性と認め、自他のよさを育み、自己有用感を高めていく。
- UDを取り入れた授業づくりを通して、わかる楽しさや確かな学力を育む。

■家庭・地域連携の充実

- PTAとの連携を密にし、よりよく生きようとする子どもの心育てる。
- 教育の場を地域に求め、地域の人材を活用しながら学習に取り組む。